

環境科学国際センターの環境学習講座 - 環境を考えてみませんか -

総務・学習担当 岡田 孝史

1 はじめに

埼玉県では、「環境優先」を県政運営の基本理念とし、環境保全に向けた各種施策を実施している。埼玉県環境科学国際センターは、こうした理念を具体化するための環境に関する総合的施設として平成12年4月に騎西町に設置された。センターは、単なる研究機能を持つ施設にとどまらず、国際貢献、情報発信、環境学習など4つの基本的機能をあわせ持つ全国的にもユニークな施設である。

このうち「環境学習機能」について、センターでは、生活者1人ひとりが環境問題を正しく理解し、環境負荷をかけないライフスタイルを実現・行動することこそが環境保全にとって最も重要であるという考えのもと、さまざまな講座や施設を通じて環境学習に関するサービスを提供している。

以下、センターが実施している環境学習講座をご紹介します。

2 センターが実施している講座

2.1 彩の国環境大学(表1参照)

環境科学に関する専門的知識を持った地域の環境リーダーを育成するため、環境に関する広範囲かつ専門的知識習得に必要な講義を行っている。基礎課程と実践課程があり修了者には修了証を交付。人材リストに掲載し、地域環境リーダーの活用も含めたネットワーク化を支援している。



写真1 彩の国環境大学開講式

表1 センターの行う講座

	内 容	実施期間	募集人数
基礎課程	環境問題全般についての基礎的な内容についての理解を深める。(全10回)	毎年10月下旬から1ヶ月程度	60人
実践課程	専門的な知識の習得や地域で活動する指導者を養成するための、実践的な講座を中心に学習する。 平日コースと土曜コースがある。 (各全10回)	毎年9月下旬から1ヶ月程度	各25人

2.2 環境科学トピック講座(表2参照)

その時々話題となっている環境に関するテーマをタイムリーに取り上げ、講義形式で講座を実施している。

2.3 生態園体験教室(表2参照)

センターの敷地にある「生態園」は、昭和30年代の埼玉東部の里山を再現したビオトープである。この生態園を利用し、園にやって来る野鳥をはじめ動植物の観察会や野外活動などを通して、身近な環境の仕組みや自然と生活の共生について学習する。

2.4 県民実験教室(表2参照)

環境を身近に学ぶため、実際に簡易な化学実験などを行うことにより、環境科学の視点から生活の中での環境汚染の状況などを学習する。



写真2 県民実験教室での受講風景

2.5 環境情報教室(表2参照)

生態園などでの動植物などを観察、季節ごとにデジタルカメラで記録し、インターネットで公開する方法を学ぶ。自然環境の大切さと、情報発信の楽しさを学習する。

表2 センターの行う講座

講座名	テーマ例	実施日	募集人員
環境トピック講座	私たちのくらしとゴミ問題 埼玉県における新たな環境行政の展開	年 2回	各100人
生態園体験教室	ビオトープを作ろう 稲の話と田植え体験 バードウォッチングをはじめよう	月 1回程度 年10回	各20人
県民実験教室	あなたが作る空気の問題 地球温暖化を実験する 食べ物と環境を考えてみませんか	月 1回程度 年10回	各20人
環境情報教室	みんなで作ろう観察記録 (春、夏、秋、冬)	年 6回	各20人

3 その他の環境学習

3.1 環境学習展示施設

環境学習を実践に結びつけるため、誰でもが気軽に、楽しく学べるように実際に動かしたりさわったりできるよう工夫を凝らした展示施設。

環境図書コーナーや、パソコンなどからインターネットを通じて勉強できる情報プラザなども併設されている。



写真3 展示館

3.2 研究施設公開

県民の日、環境月間、科学技術週間などの特定の日に、普段は立ち入れない研究室・実験室などの見学ツアーを行っている。説明は各研究グループの研究者が行い、無響室などの施設も見ることができる。



写真4 研究施設公開

3.3 ホームページによる学習

センターのホームページでは、環境について楽しく学ぶためのさまざまなコーナーを設けている。たとえば、「学ぶ」では、環境用語集や、環境クイズ、「調べる」では、環境県政ニュースや、研究論文、法令等の情報を逐一掲載している。「観る」のコーナーでは、大気汚染常時監視システムからのデータを見ることができる。

(<http://www.kankyoutu.pref.saitama.jp/>)



写真5 センターホームページから

3.4 エコ・サマースクール(表3参照)

環境問題に対する理解を深め、環境保全活動の実践を促すため、夏休みを利用して小・中学校生徒・教員を対象にエコ・サマースクールを行う。(教育局・環境推進課の行う事業へ参加)

3.5 彩の国ホップ・ステップサイエンス事業(表3参照)

学校と試験研究機関が相互に連携・協力し、子供たちに学校では味わえないような科学に関する体験学習の場を提供する。(教育局の行う事業への参加)

表3 他課所とのタイアップイベント

	イベント名(例)	内容(テーマ例)
エコ・サマースクール	環境科学相談室 こども実験教室	・自由研究のヒントをさがしてみませんか ・葉っぱを使って実験しよう
彩の国ホップ・ステップサイエンス事業	彩の国サイエンスキッズ 彩の国サイエンスアドベンチャー	・県内にある博物館等を巡るスタンプラリー ・環境に関する疑問に研究者からの直接講義やアドバイスを受ける。

3.6 身近な環境観察局ネットワーク

身近な環境を実際に器具や簡単な測定法を使って調査する方法などを学ぶためのプログラム。環境問題への関心を高めることを目的に県民・環境NGOや県内の中学・高校の科学クラブなどを観察局とし、ネットワーク化を図る。

4 おわりに

地球規模での環境の悪化が指摘され、環境保全への取り組みが急務となってきている。環境がこれまでクローズアップされた時期は過去にも例をみない。しかし、環境保全に向けた取り組みは、行政や企業はもとより、県民の方々1人ひとりの理解と参加がなければ実現し得ないものである。環境問題は、個人が被害者であるが加害者でもあるという自覚のもと、かけがえのない環境を守り、子孫に引き継ぐことが我々に課された責務となっている。

このような状況を深く認識しセンターでは、様々な講座や施設を通して地域レベルでの環境に対する関心の高まりに応えたいと考えている。また、今後は各種環境活動を行うグループの方々の取り組みにも支援ができないか検討してまいりたい。